

岡山県感染症週報 2013 年 第 14 週 (4 月 1 日～4 月 7 日)

◎岡山県では『インフルエンザ注意報』発令中です。

◆2013 年 第 14 週 (4/1～4/7) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

報告はありませんでした。

■定点把握感染症の発生状況

○インフルエンザは、県全体で 280 名 (定点あたり 5.62 → 3.37 人) の報告があり、減少がつづいています。

○感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 9.17 → 9.58 人)。

- インフルエンザ**は、県全体で 280 名 (定点あたり 3.37 人) の報告があり、前週 (5.62 人) より減少しました。多くの地域で患者が減少し、発生レベル 1 になりましたが、しばらくはインフルエンザの流行がつづくと思われる。岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を図っています。手洗い・うがいなど感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。全国の第 13 週 (3/25～3/31) の集計によると、定点あたり 4.38 人であり、前週 (6.75 人) よりも減少しました。第 5 週以降減少がつづいており、47 都道府県全てで前週の報告数より減少しました。
- 感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 9.17 → 9.58 人)。0～2 歳の乳幼児が患者全体の 37% を占めています。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
- 風しん**は県内の発生はありませんでした。今年、岡山県では第 1～14 週までに 12 名が報告され、2008 年の 13 名に次いで患者報告が多くなっています。全国では関東地方、近畿地方を中心に昨年を上回る大きな流行になっており、2013 年第 1～13 週までの累計報告数は 2,903 人であり、2008 年に風しんが全数把握感染症になって以降、これまでにない規模で患者が急増しています。特に 2 月以降は、全国の 1 週間あたりの患者発生数が毎週 300 人を越える週がつづいています。患者は男性 2,278 人、女性 625 人で男性が女性の 3.6 倍報告されており、男性患者の約 86% は 20～40 代で、女性患者の約 61% は 20～30 代となっています。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		★

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加
発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★★: 少し ★★★★★: やや多い ★★★★★★: 多い ★★★★★★★: 非常に多い
※今週の流行状況を過去 5 年間と比較し、5 段階で表示しています。

【お知らせ】 中国でインフルエンザ A(H7N9)の患者が発生しました。今後の情報に注意してください。

○[海外で健康に過ごすために 新着情報 \(厚生労働省検疫所ホームページ\)](#)

○[中国における人での鳥インフルエンザ A\(H7N9\)感染症に関する Q&A 世界保健機構 WHO](#)

(国立感染症研究所 感染症疫学センター)

インフルエンザ情報 2013 年 第 14 週 (4 月 1 日 ~ 4 月 7 日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

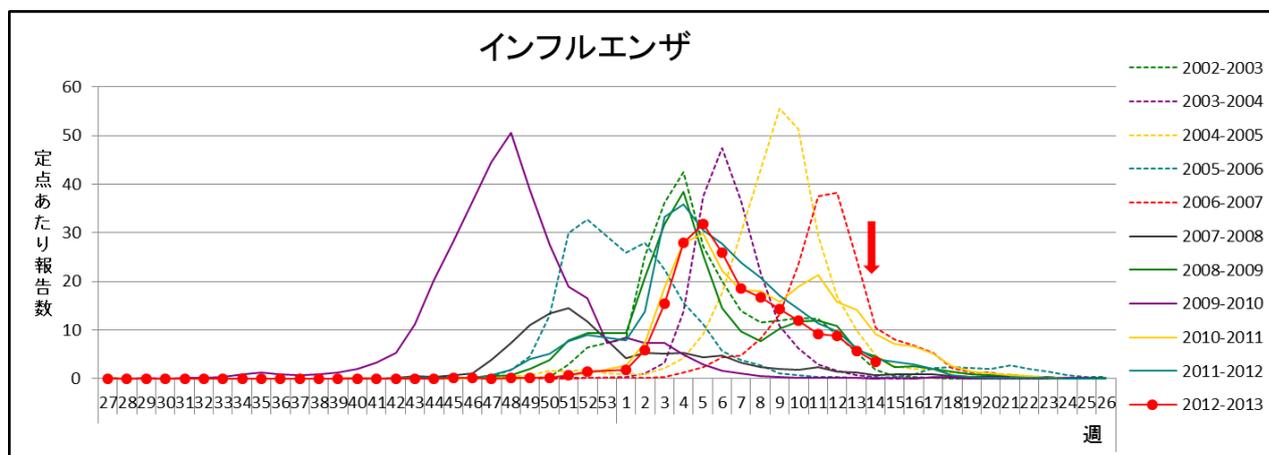
➤ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、県全体で 280 名（定点あたり 5.62 → 3.37 人）の報告があり、第 5 週をピークに減少がつづいています。

岡山県は「インフルエンザ注意報」発令中です。

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

○インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 280 名（定点あたり 5.62 → 3.37 人）の報告があり（84 定点医療機関報告）、前週より減少しました。全ての地域で定点あたり患者数が 10 人を下まわり、第 13 週から発生レベル 1 になりましたが、しばらくはインフルエンザの流行がつづくと思われます。岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を図っています。

学校等では新学期が始まり、集団生活の中で感染の機会が増加します。再び患者が増加する可能性もありますので、手洗い・うがいなどの感染予防を心がけましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

※注意報の解除基準：2 週連続して、定点あたり 1 人を下まわった場合。

◆ インフルエンザは依然として流行期にあります。ひきつづき感染予防に努めて下さい。

【 インフルエンザにかかったら 】

- 家に帰ったら、手洗い・うがいをしましょう。
- 人混みに入る時は、マスクを着用しましょう。
- 十分な睡眠、バランスの良い食事などに気を付けて、抵抗力をつけましょう。

【 かかったかな？という時は 】

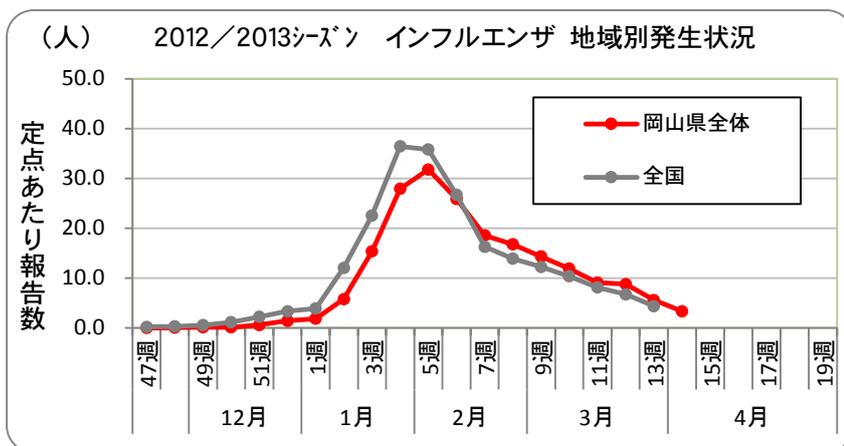
- 早めに医療機関を受診し、確実に治療しましょう。
- できるだけ昼間に受診し、必ずマスクを着用して受診しましょう。
- 周りの人にうつさないように「咳エチケット」を心がけましょう。

1. 地域別発生状況

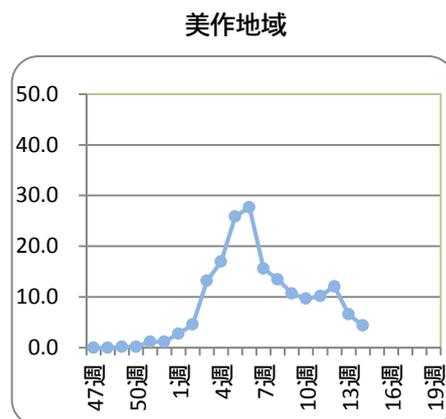
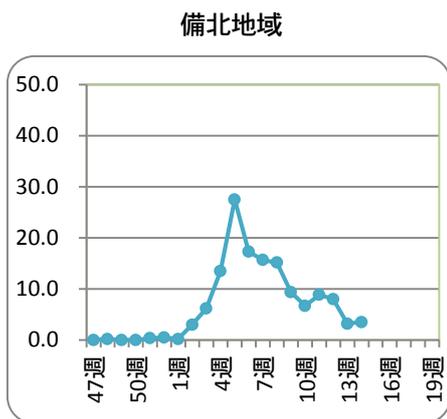
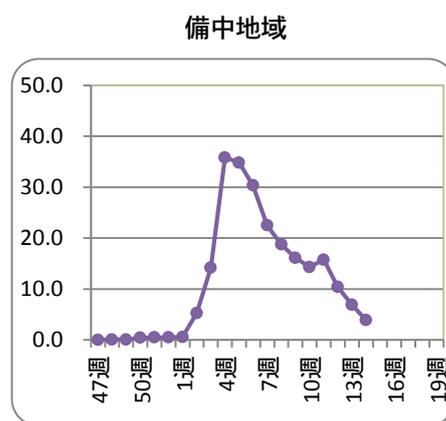
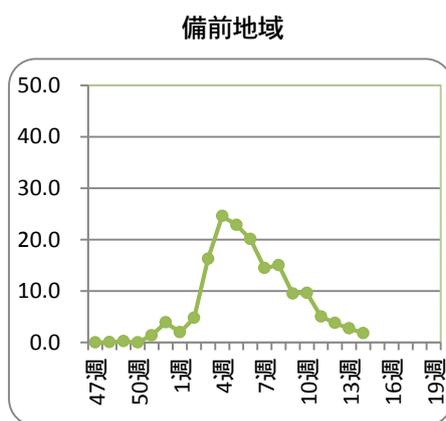
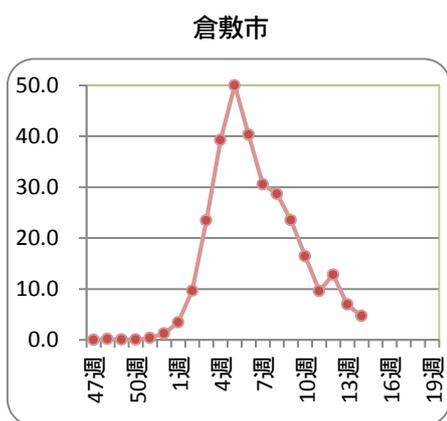
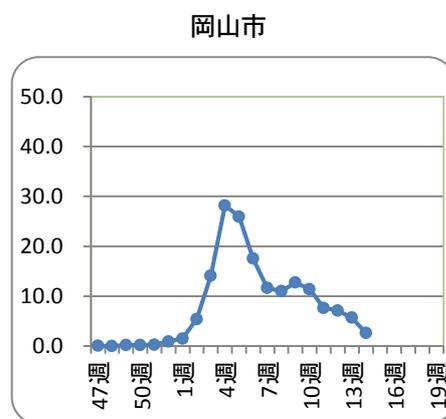
第 14 週 (4/1~4/7) 前週からの推移 (単位 : 人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	280	↓	備 中	患者数	47	↓
	定点あたり	3.37			定点あたり	3.92	
岡山市	患者数	58	↓	備 北	患者数	21	↑
	定点あたり	2.64			定点あたり	3.50	
倉敷市	患者数	75	↓	真 庭	患者数	9	↓
	定点あたり	4.69			定点あたり	3.00	
備 前	患者数	26	↓	美 作	患者数	44	↓
	定点あたり	1.86			定点あたり	4.40	

【記号の説明】 前週からの推移 : 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↓ 1.1未満の増減 →
1.1~2倍未満の増加 ↑ 2倍以上の増加 ↑



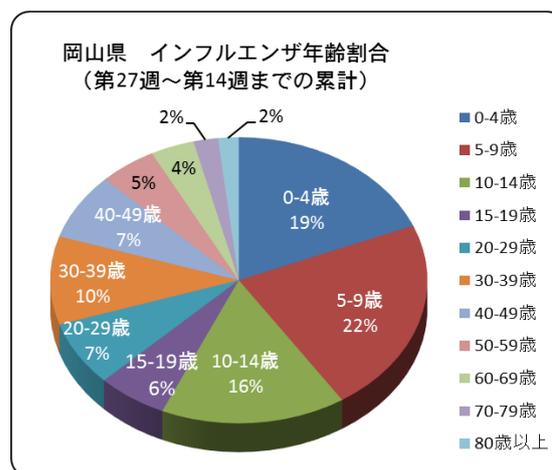
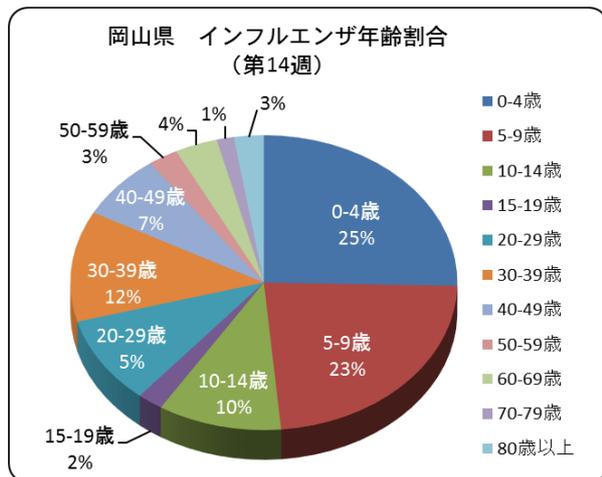
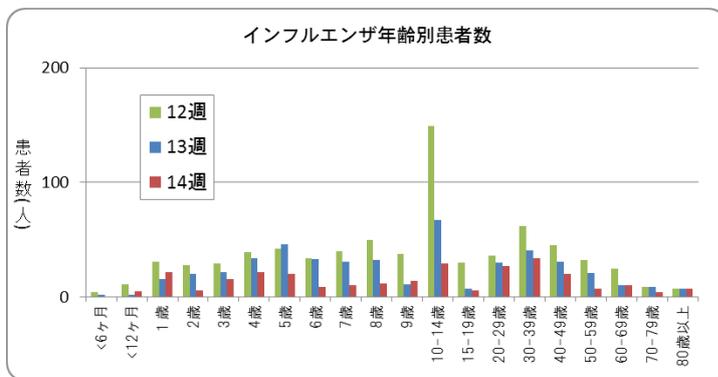
全国集計第 13 週(3/25~3/31)の定点あたり患者数は 4.38 人となり、前週(6.75 人)よりも減少しました。第 5 週以降減少がつづいており、47 都道府県全てで前週の報告数より減少しました。



2. 年齢別発生状況 第14週 (4/1~4/7)

インフルエンザ患者の年齢割合は、0-4歳が25%、5-9歳が23%、30-39歳が12%の順でした。

春休み期間中であったことから、幼児、小学生、中学生に該当する年齢層の患者数は減少しましたが、ひきつづきこの年齢層が全体の58%を占め患者の中心となっています。



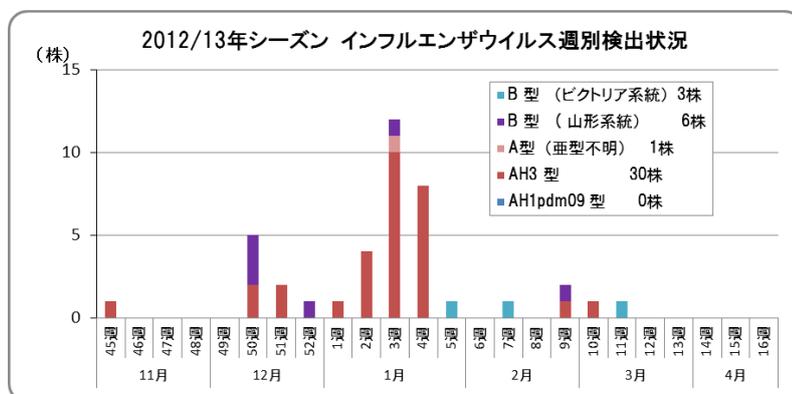
3. インフルエンザウイルス検出状況 第14週 (4/1~4/7)

第14週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、1~3月に採取された検体からインフルエンザウイルスAH3型が2株、B型(山形系統)が2株、B型(ビクトリア系統)が2株でした。

今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が30株、A型(亜型不明)が1株、B型(山形系統)が6株、B型(ビクトリア系統)が3株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く85%、B型が13%、AH1pdm09型が2%の順になっています。昨シーズン同様AH3型が主流になっていますが、B型の検出割合が徐々に増加しています。

[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症疫学センター\)](#)

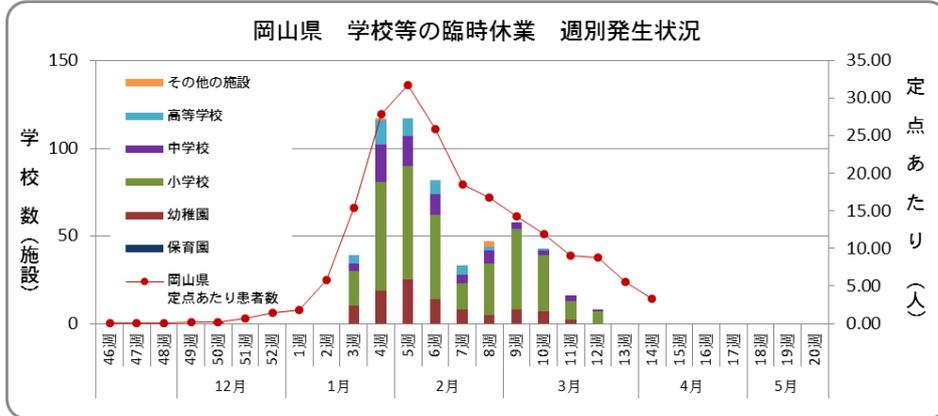


ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスB型	2013年第3週	2013年1月17日	岡山市	小学生	男	山形系統
インフルエンザウイルスB型	2013年第7週	2013年2月12日	岡山市	40代	男	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスB型	2013年第9週	2013年2月28日	岡山市	小学生	男	山形系統
インフルエンザウイルスAH3型	2013年第9週	2013年3月2日	岡山市	小学生	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2013年第10週	2013年3月4日	岡山市	50代	女	
インフルエンザウイルスB型	2013年第11週	2013年3月15日	岡山市	40代	女	ビクトリア系統

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第14週(4/1~4/7)

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

◆第14週 臨時休業施設数



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第14週

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	7792	0	5747	0	562	0	22	0	182	0	358	H 24. 11. 6
岡山市	0	2906	0	2103	0	184	0	2	0	30	0	152	H24. 11. 6
倉敷市	0	1791	0	1288	0	109	0	1	0	15	0	93	H25. 1. 15
備前地域	0	875	0	664	0	80	0	4	0	36	0	40	H25. 1. 15
備中地域	0	1109	0	895	0	92	0	6	0	42	0	44	H24. 12. 12
備北地域	0	301	0	231	0	31	0	3	0	23	0	5	H25. 1. 21
真庭地域	0	128	0	90	0	12	0	1	0	9	0	2	H25. 1. 21
美作地域	0	682	0	476	0	54	0	5	0	27	0	22	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第14週 : 0 施設

累計 : 562 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	98	0	336	0	78	0	46	0	4

◆ インフルエンザによる出席停止期間が改正されました。

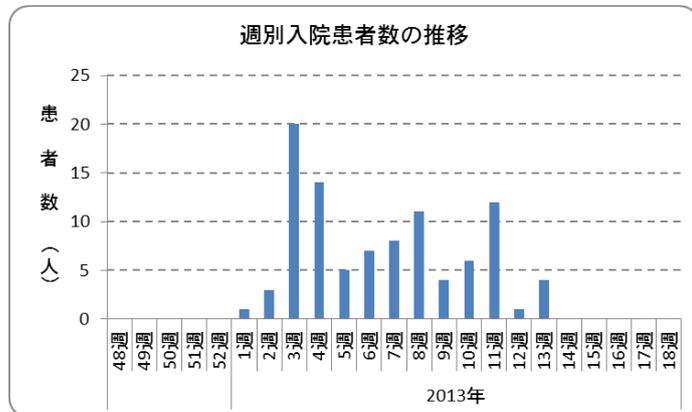
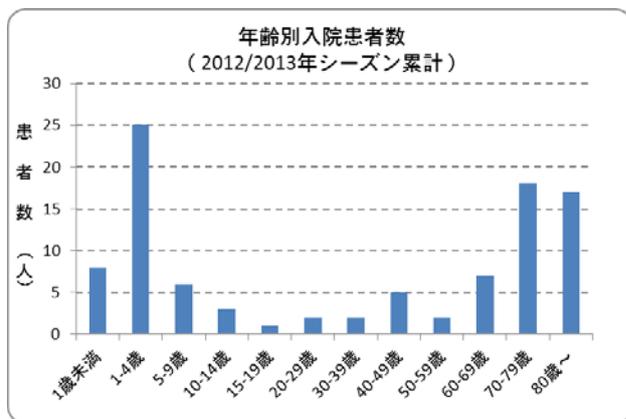
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日(幼児にあっては、3 日)を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数 第14週(4/1~4/7) (県内基幹定点5医療機関による報告)

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第14週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数													0
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)													
頭部MRI検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず													

*重複あり

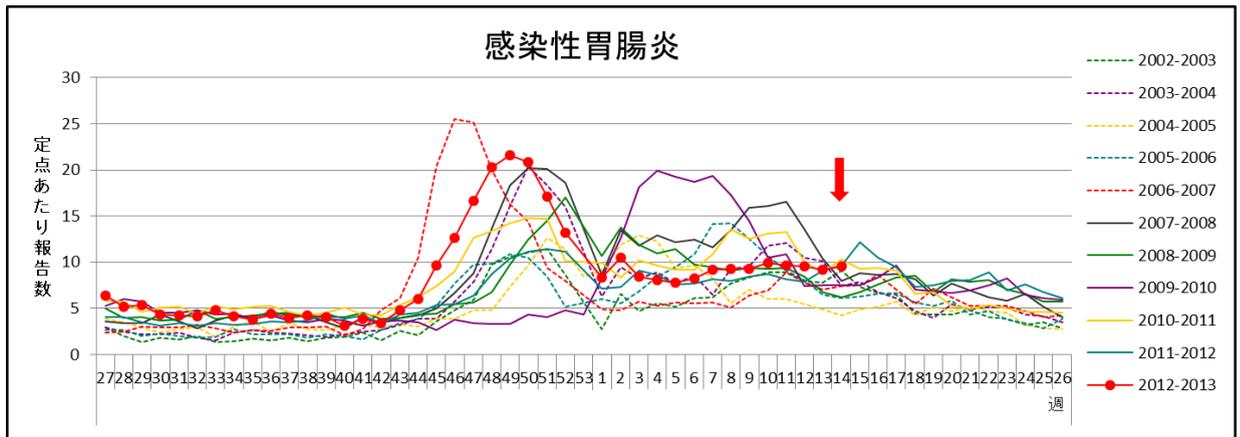
【平成24年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	8	25	6	3	1	2	2	5	2	7	18	17	96
ICU入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部CT検査(予定含)		3	3	1	1	1	1				2		12
頭部MRI検査(予定含)		8	2		1		1						12
脳波検査(予定含)		1					1						2
いずれにも該当せず	8	16	2	2		1	1	5	2	6	16	17	76

*重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 14 週 (4 月 1 日 ~ 4 月 7 日)

○岡山県内の患者報告数は 527 名 (定点あたり 9.58 人) であり、前週とほぼ同数でした。(54 定点医療機関報告)

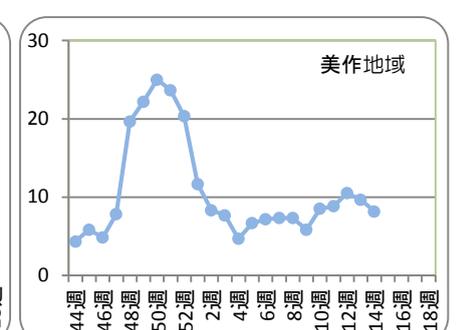
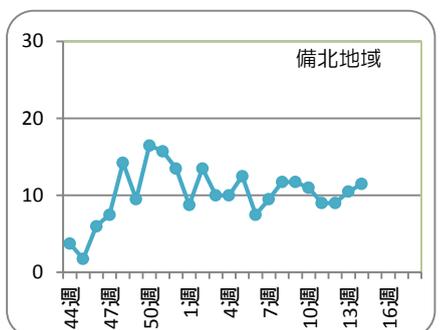
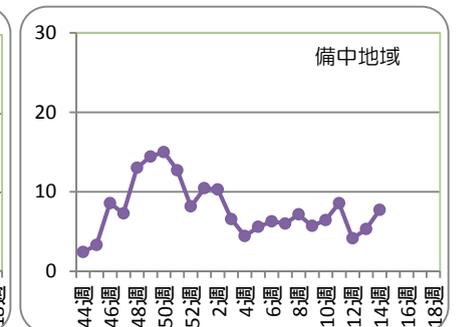
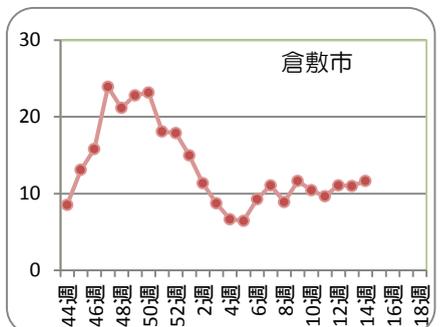
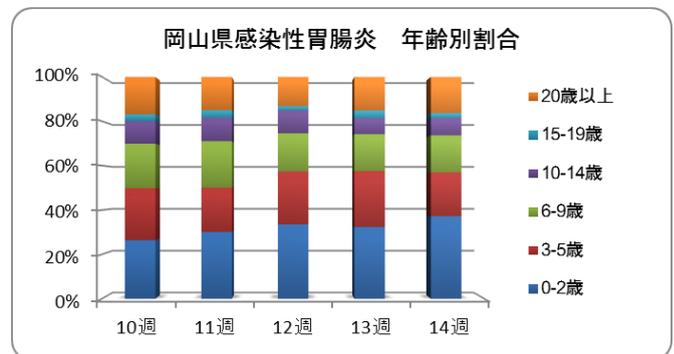
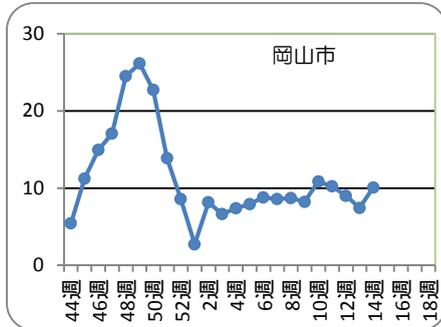


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数で (定点あたり 9.17 → 9.58 人)、第 3 週以降横ばいで推移しています。地域別では、倉敷市 (11.64 人)、備北地域 (11.50 人)、岡山市 (10.07 人) で患者が多くなっています。年齢別では、0~2 歳が全体の 37% を占め、この年齢層の割合が徐々に増加しています。

依然として患者数は、流行期とほぼ同数で推移しています。例年 3~5 月にかけては、ロタウイルスによる胃腸炎が、0~2 歳の乳幼児を中心に増加するとされています。岡山県でも、0~2 歳の割合が徐々に増加しており、注意が必要です。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理など感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



保健所別報告患者数 2013年 14週 (2013/04/01～2013/04/07)

2013年4月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	280	3.37	58	2.64	75	4.69	26	1.86	47	3.92	21	3.50	9	3.00	44	4.40
RSウイルス感染症	9	0.16	6	0.43	1	0.09	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	0.09	1	0.07	1	0.09	1	0.09	2	0.29	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	0.65	20	1.43	9	0.82	-	-	2	0.29	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	527	9.58	141	10.07	128	11.64	105	9.55	54	7.71	46	11.50	4	2.00	49	8.17
水痘	58	1.05	21	1.50	17	1.55	5	0.45	3	0.43	6	1.50	2	1.00	4	0.67
手足口病	4	0.07	2	0.14	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	0.05	-	-	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	8	0.15	4	0.29	3	0.27	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	3	0.21	1	0.09	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 14週 (2013/04/01～2013/04/07)

2013年4月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	280	3.37	58	2.64	75	4.69	26	1.86	47	3.92	21	3.50	9	3.00	44	4.40
咽頭結膜熱	5	0.09	1	0.07	1	0.09	1	0.09	2	0.29	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	0.65	20	1.43	9	0.82	-	-	2	0.29	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	527	9.58	141	10.07	128	11.64	105	9.55	54	7.71	46	11.50	4	2.00	49	8.17
水痘	58	1.05	21	1.50	17	1.55	5	0.45	3	0.43	6	1.50	2	1.00	4	0.67
手足口病	4	0.07	2	0.14	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	0.05	-	-	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	3	0.21	1	0.09	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第14週 2013/04/01~2013/04/07)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	280	-	5	22	6	16	22	20	9	10	12	14	29	6	27	34	20	7	10	4	7

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	9	4	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	-	1	1	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	-	1	1	2	2	6	7	4	3	3	2	3	-	2
感染性胃腸炎	527	8	25	112	51	34	40	30	29	21	20	18	41	12	86
水痘	58	1	2	13	11	6	12	7	3	2	-	-	1	-	-
手足口病	4	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-
突発性発疹	8	1	3	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	-	-	1	-	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

(- : 0)

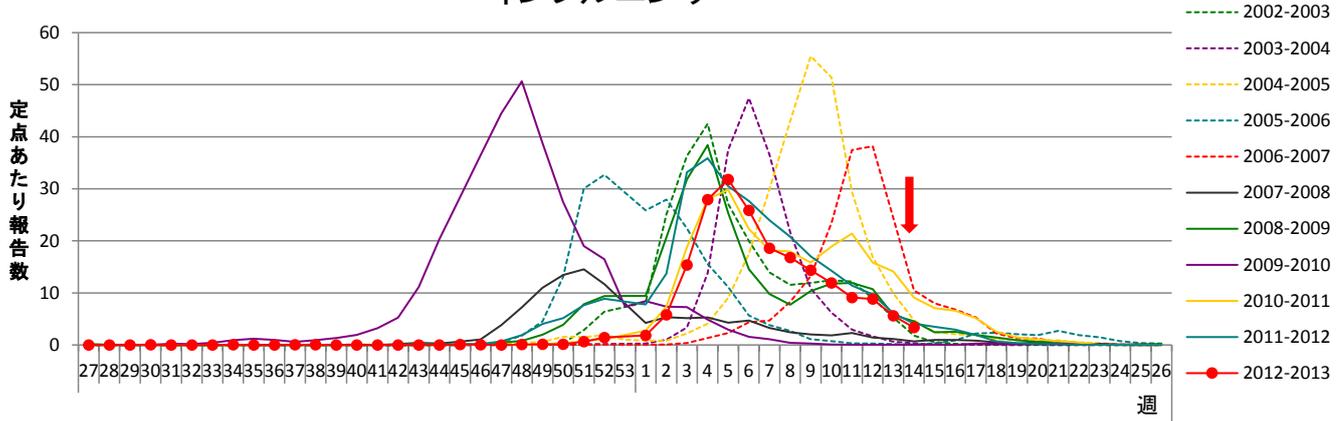
全数把握 感染症患者発生状況

2013年 14週

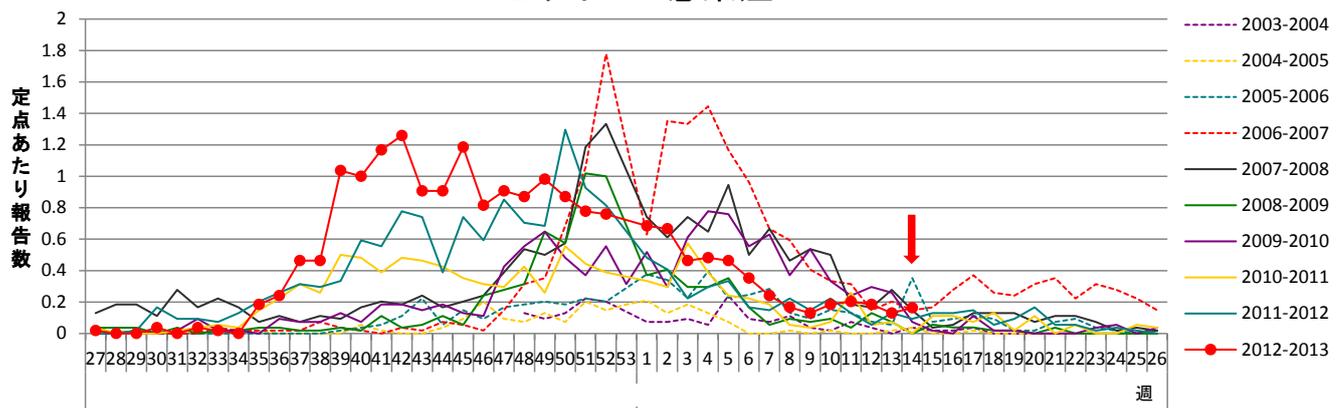
分類	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	62	478	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	4	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	6	29	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	2	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	7	急性脳炎*4	-	2	2
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	5	15	ジアルジア症	-	-	3	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	-
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	-	-	先天性風しん症候群	-	-	-
	梅毒	-	3	7	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	-	12	6	麻しん	-	-	6

※今週から、五類感染症に侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症および侵襲性肺炎球菌感染症が追加され、集計対象になります。髄膜炎菌性髄膜炎は五類感染症から削除されました。

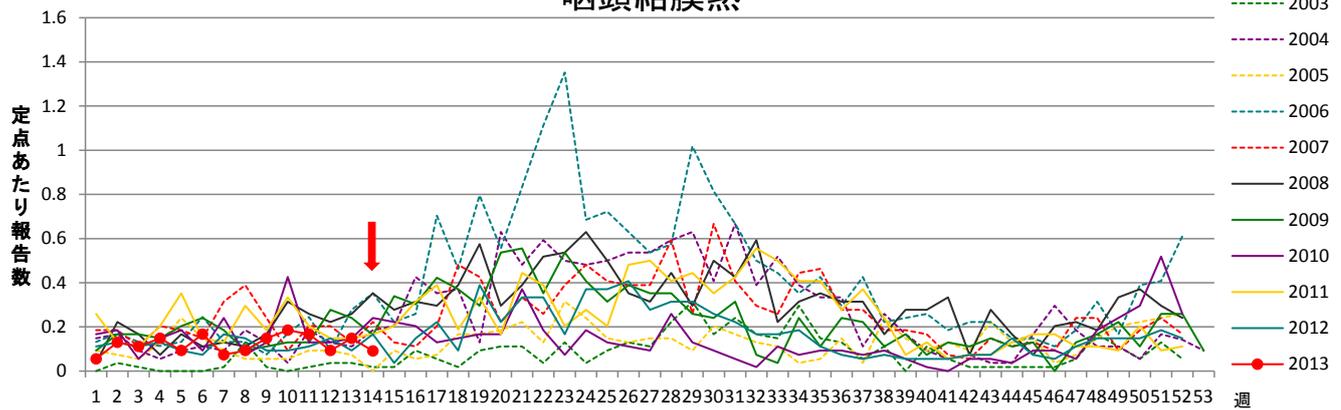
インフルエンザ



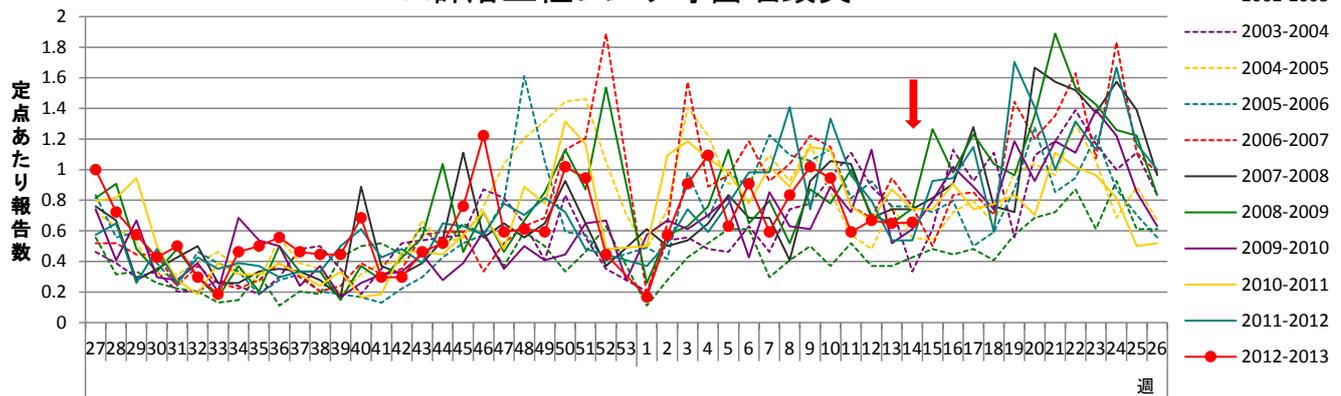
RSウイルス感染症



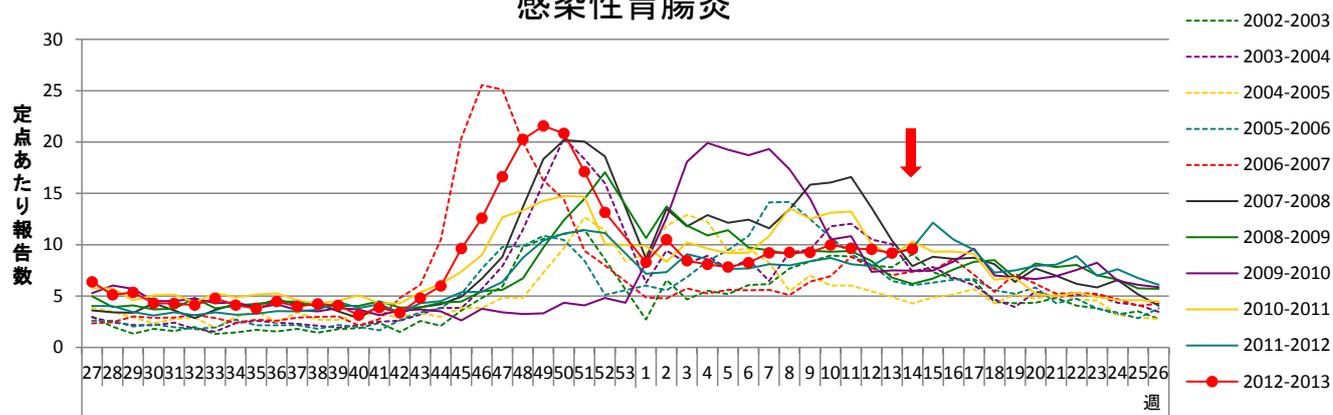
咽頭結膜熱



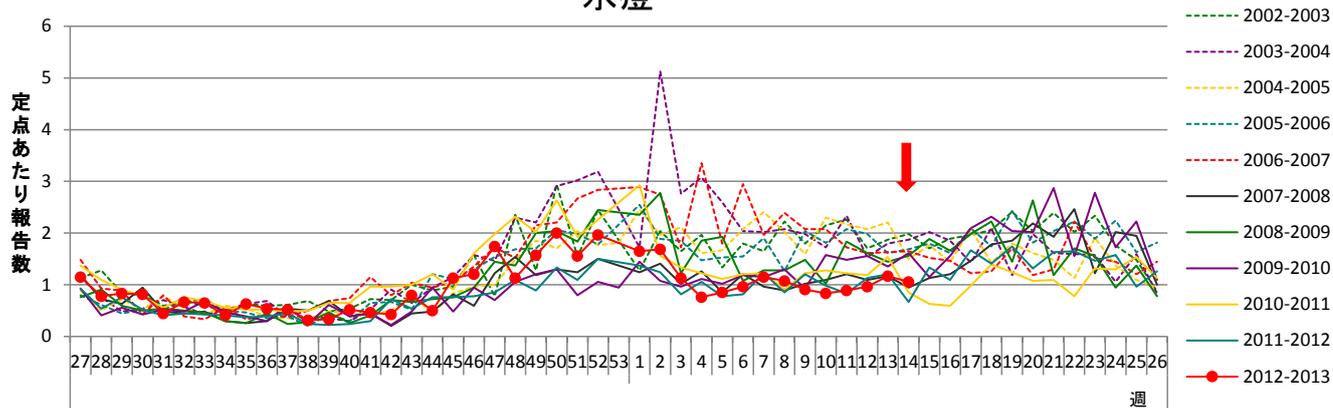
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



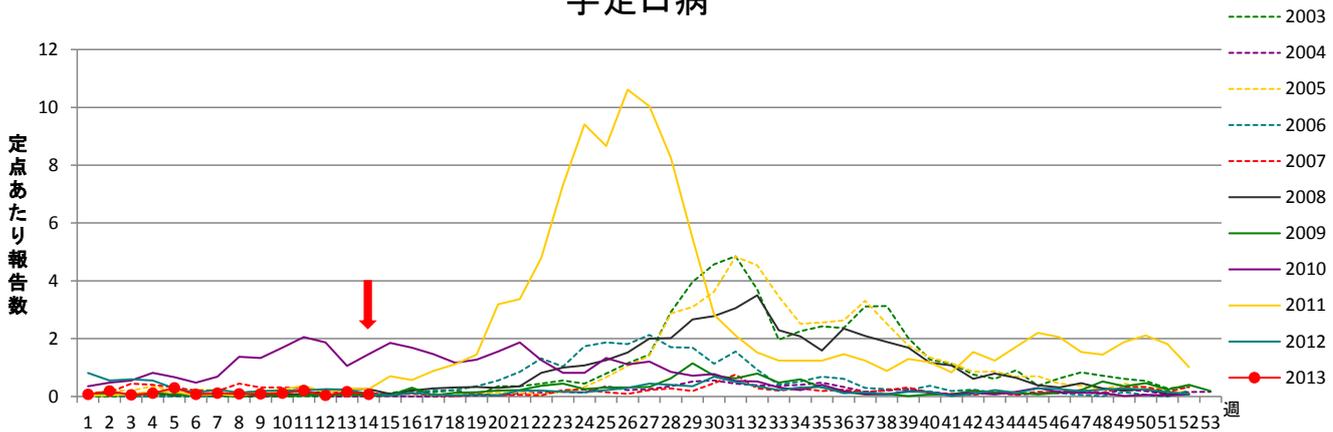
感染性胃腸炎



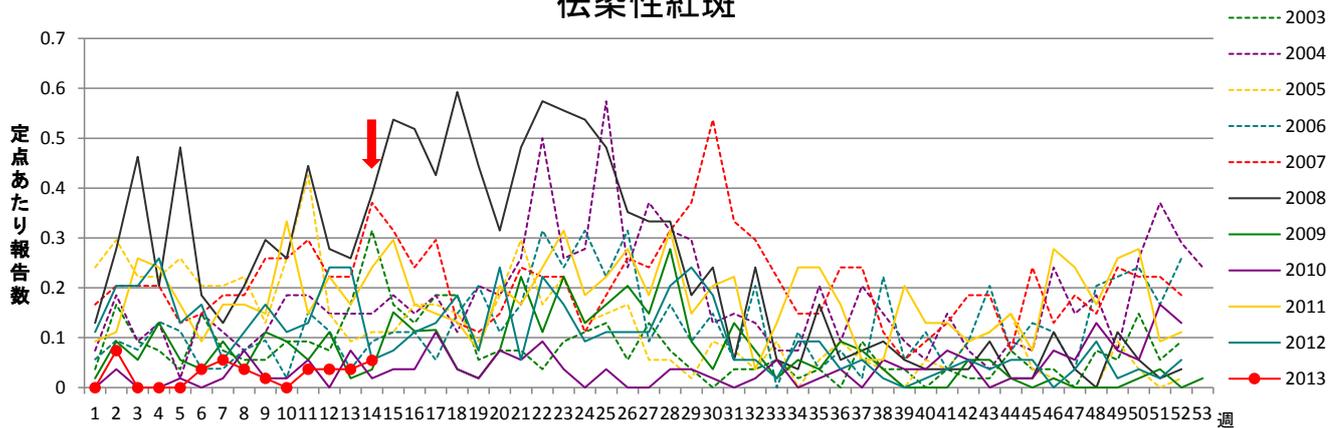
水痘



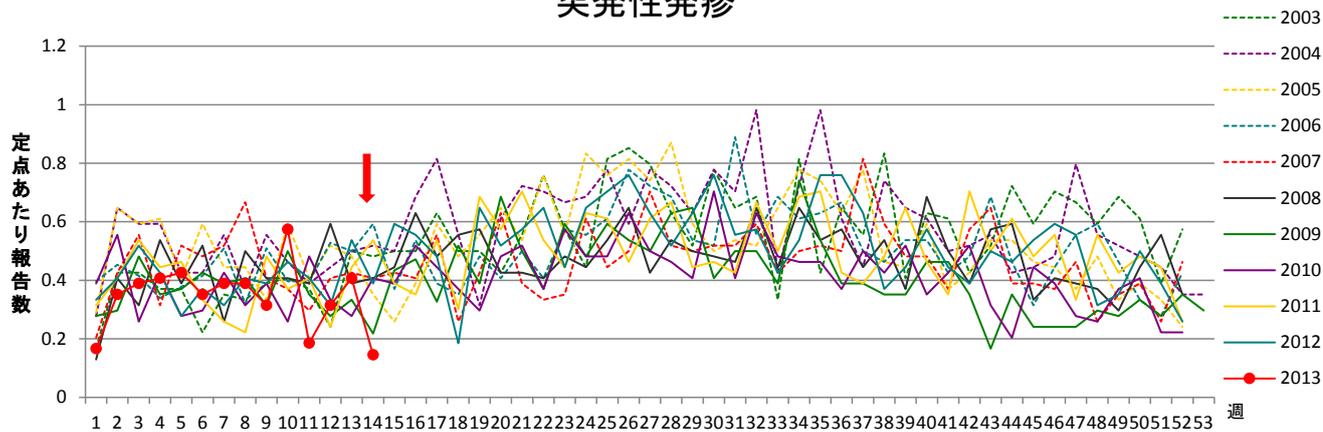
手足口病



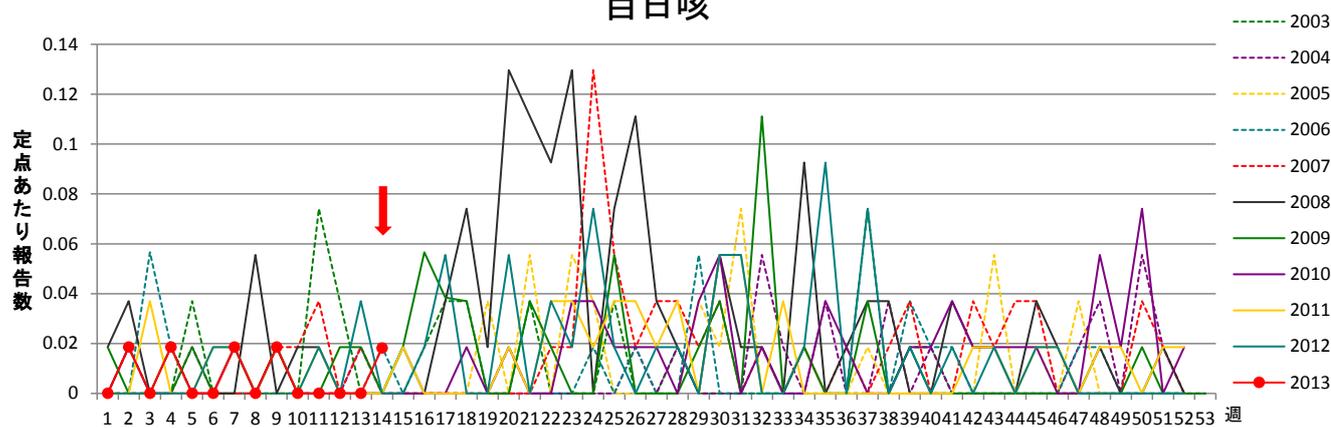
伝染性紅斑



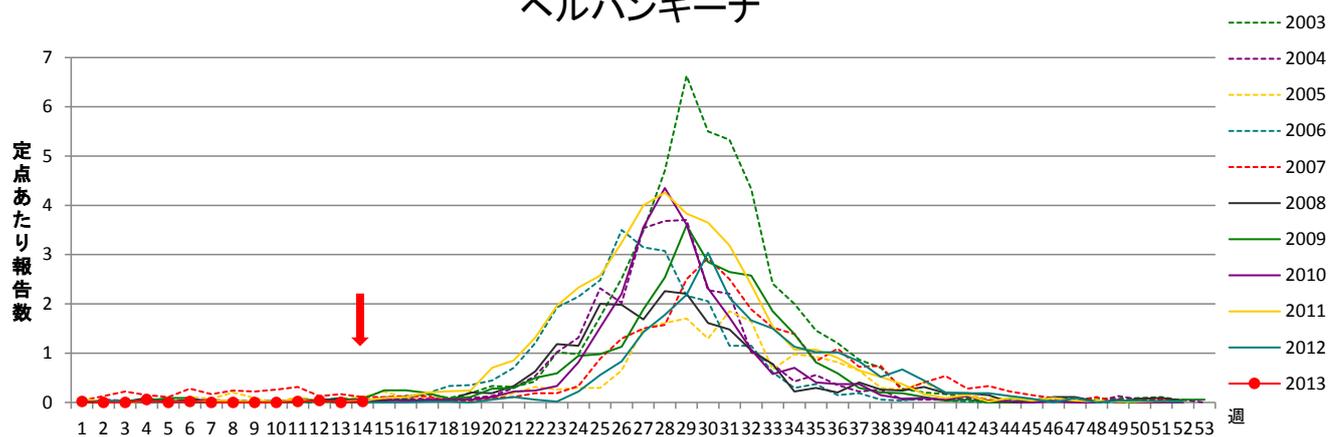
突発性発疹



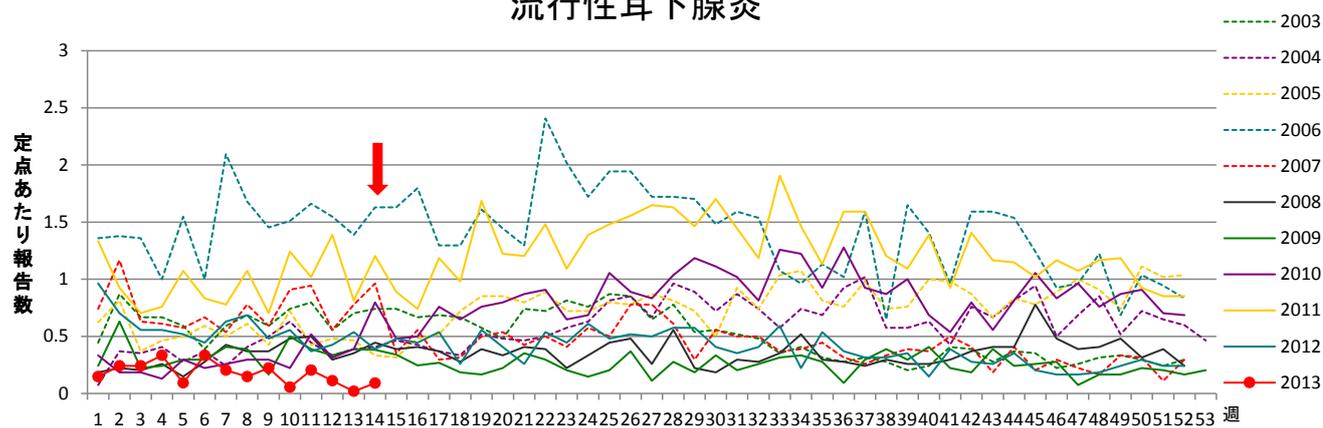
百日咳



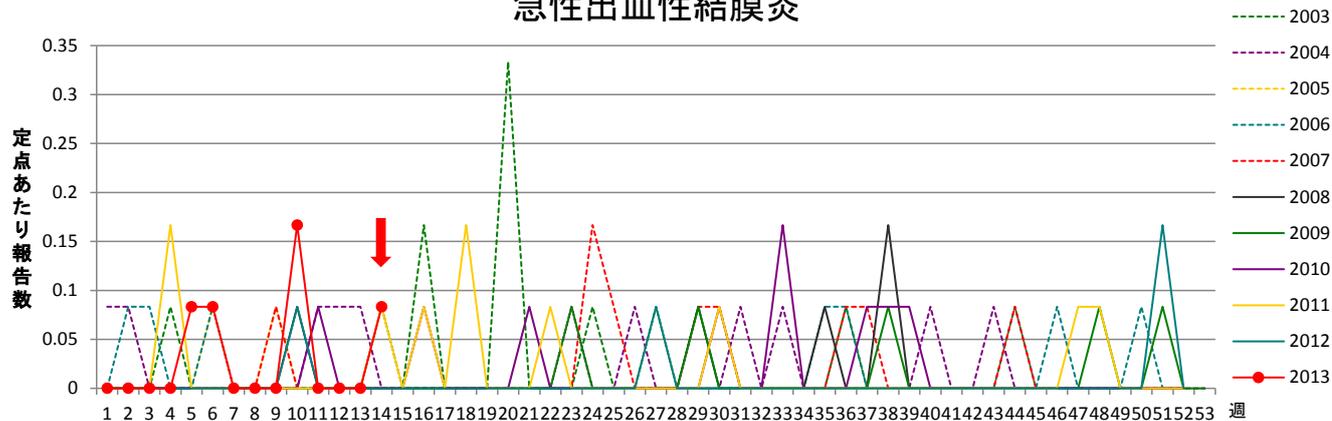
ヘルパンギーナ



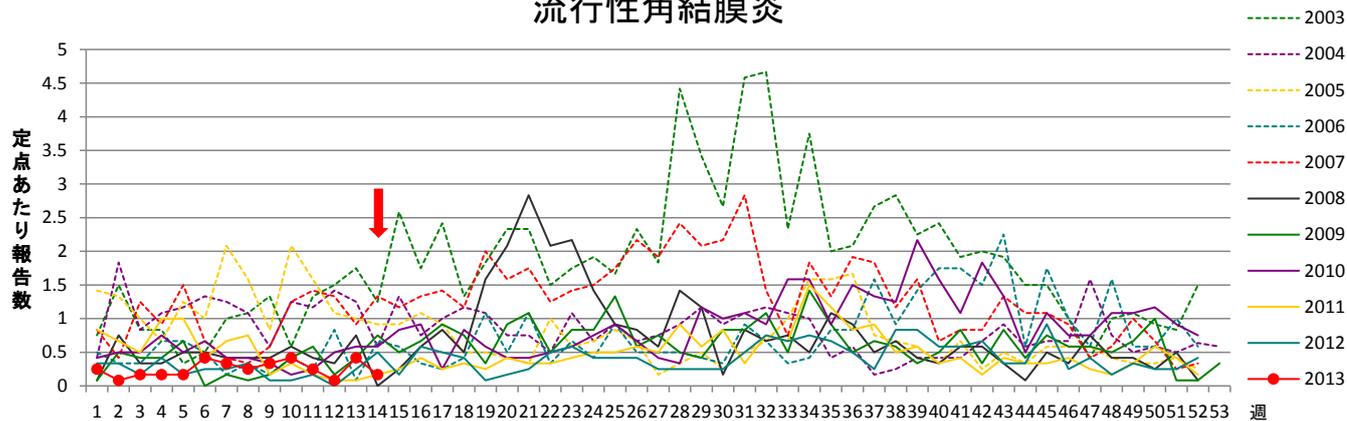
流行性耳下腺炎



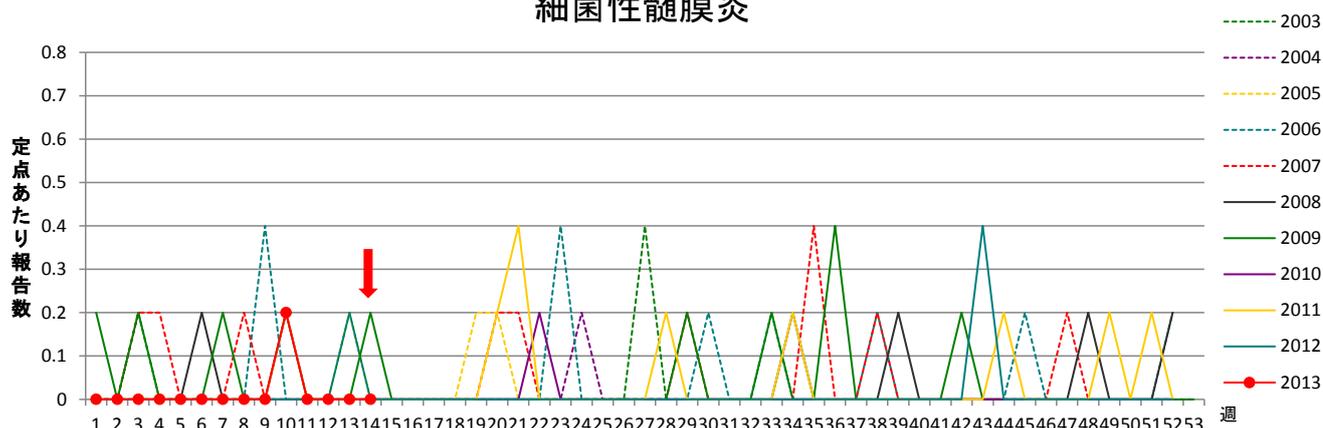
急性出血性結膜炎



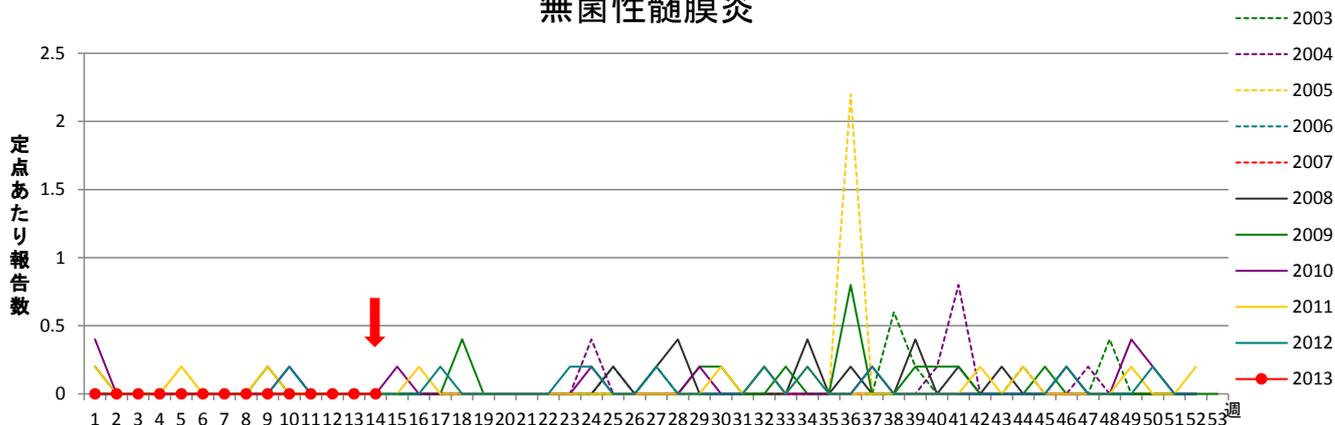
流行性角結膜炎



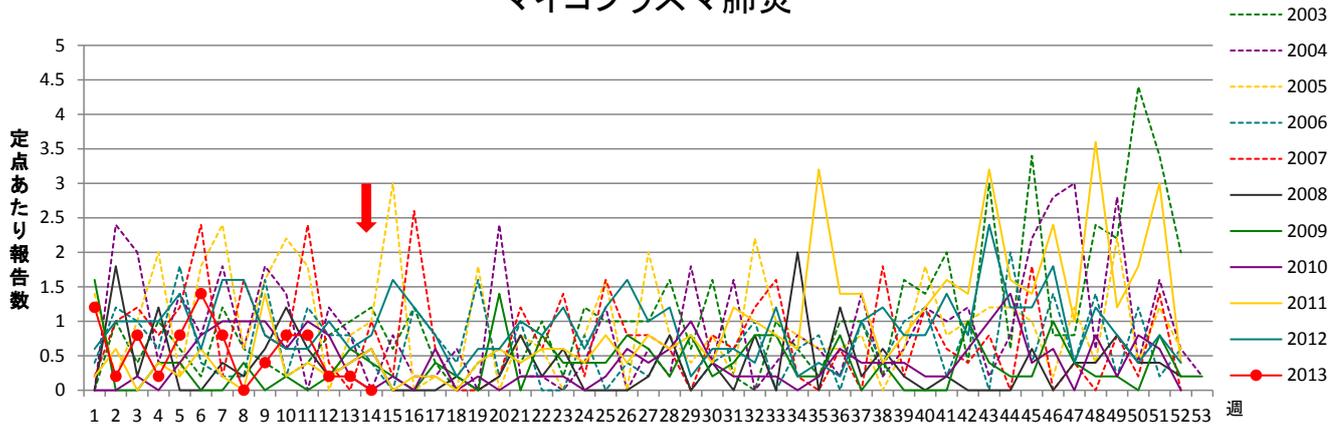
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

